

PARNASSIUS

No. 30

目 次

淡路島より新に記録される甲虫について	高橋 寿郎	1
淡路島のマイコトラガについて	登日 邦明	8
タマムシ幼虫の食樹について	堀田 久	10
南淡町でイシガケチョウを採集	藤平 明	10

淡 路 昆 虫 研 究 会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI

HYOGO JAPAN

May 1984

淡路島より新に記録される甲虫について

(兵庫県甲虫相資料・135)

高 橋 寿 郎

かねて県下の海浜性の甲虫を調べて見たいと考えていた。G. Lewis が兵庫（現在の神戸市）を訪れ多くの甲虫を採集して帰った頃は、兵庫の港もさることながら神戸（神戸村）にわたる海岸線は見渡す限りの砂浜での海岸線であった（神戸の外国人居留地、のじぎく文庫、1980）。そしてその様な状況下で採集された標本で記載された多くの甲虫がその後海岸線の破壊、消滅即ち護岸設備が完備されたコンクリートに囲れた海岸線に変わってしまつて何処を見ても自然状態とはかけ離れた状況になっている。僅かに残っているのは日本海側は別として淡路島位ではないか（此処も御多分に洩れず道路が海岸のそばを舗装してギリギリの所を通りテトラポットによる海岸線が出来ていて砂浜地帯など極めて僅かしか残っていないのが現状である）と云うことから海浜性甲虫の調査はどうしても淡路島でやらなければいけないとかねがね考えていた。筆者の個人的家庭事情から色々制約があり仲々実現が難しかった。1983年機会を得て津名郡松帆ノ浦海岸（4月21日）、三原郡慶野松原海岸（5月26日）を単独で調査することが出来僅かの時間の結果にもかゝらず予想以上の好結果が得られた。単独での調査で之であるからもっと多くの人々により更に季節を変え調べると相当のまとまった面白い結果が得られると思うし吹上浜あたりは是非調べなくてはいけない地点で地元の方達はこの点大いに期待したいと思う。

たゞ松帆ノ浦はお世辞にも現在は海岸線とは云えなく塵芥捨場となっている砂地帯であり、慶野松原は海水浴場だけあって空缶、空壘が多く捨て、あるし、車を砂地の中に入れてゴミをほかしたまゝ、帰る若者の状況、また松林もマツクイムシにやられているのが散見されこのまゝの管理状態であれば早晩この海岸線も荒廃しそうである。

今回の2回の調査結果兵庫県初記録種2種、原記載がHiogo, Kobeとなつていてそれ以後県下の記録の無かつた2種、淡路島から始めての記録と思われるもの17種の甲虫類も一応此処に報告したいと思う。他に甲虫類は採集してゴキムシだけでも9~10種位いると思うが之等をふくめて同定に確信がもてない種は今回の報告から省いた。異翅半翅類も若干採集出来ている。それ以外蝶などの採集は一切やっていない。甲虫類で既に淡路島から記録されているものも若干採集している。之も今回は一切省かせて頂いた。

末筆ではあるが淡路の状況に就いて御教示下さつた登日邦明氏に厚く御礼申しあげる。

尚淡路島未記録として報告したのも筆者の見られる範囲内での記録から判断したもので或は既に記録があるかも知れない。それ等があれば御教し頂くと共にその記録を御教示頂ければ大変幸甚である。

Family Harpalidae ゴミムシ科

Craspedonotus tibialis Schaum オサムシモドキ

本種は古く Hiogo [現在の神戸市] の記録は Schönfeldt の日本産甲虫目録の中にあり (1887), 戸沢信義氏も芝川氏が須磨で採集された 2 exs. を記録しておられる (1936). 戦前垂水で多く採集した経験があるが当時の垂水は一面が畑で現在のような住宅が建ち並ぶような状況ではなかった. その後県下での記録が無く山手短大の田中教授の標本を見せて頂いた中に神戸再度山産の標本があったが可成り古く採集されたもの、ようであった. 県下では他に出石郡と城崎郡での記録がある位である (1963, 1975).

淡路島からは今迄記録が無かったと思われる. 今回慶野松原の松林の中で 1.5 m 位に切られた松の樹の下に砂にかくれるように 2 exs. を見出すことができた.

産地: 三原郡慶野松原 (2 exs., 26-V-1983).

尚オオヒョウタンゴミムシは既に吹上浜では採集されているし慶野松原でも採集出来ているようなことを非公式に耳に入っていたりするので大いに期待していたのであるが時期的に若干早かったのかヒョウタンゴミムシ 1 ex. 採集の結果に終わってしまった. 環境からして大いに期待のもてる所だけに地元の方にはっきりした状況を調べて頂きたいものである.

Family Hydrophilidae ガムシ科

Cercyon dux Sharp フチトリケシガムシ

本種は Sharp が 'Seaweed, Nagasaki and Amakusa' を産地に記載された種で (Trans. Ent. Soc. London : 65, 1873). 北海道, 本州, 九州に分布することが知られていて海浜の堆積下にいる種と知られていた. 神戸市内あたりで時々採集されているが県下の余り北の方の記録が見受けられない. 原記載には Seaweed とあるように松帆ノ浦の海岸に打ちあげられていた海藻の下にたくさんいた. 淡路島からの記録は今迄無かったように思う.

産地: 津名郡松帆ノ浦 (9 exs., 21-IV-1983).

Cercyon algarum Sharp ヒメケシガムシ

本種は前種と同じ所で産地は記入されていないが 'Under seaweed in company with *C. dux*' として記載されている (1873).

前線と同じ様な所に棲んでいる種で従来県下では加西市で燈火に来たのを採集しただけで全く他の記録が無かった. 淡路島でも未記録だった. 松帆ノ浦の海岸で海藻の下に割合いるようだった.

産地: 津名郡松帆ノ浦 (2 exs., 21-IV-1983).

Cercyon guisguilius Linné キバネケシガムシ

本種はヨーロッパ, シベリアから日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布して普通にいる種の

ようである。兵庫県下の記録も山岳地帯ではほとんど知られていないが割合広く分布している種のように神戸市内などでも割合得られる。淡路島からはどうしたわけか今迄記録が見られなかった。恐らく調査が不十分だったからだと思われる。以上3種は総て中根博士による図説がある(1963)。

尚 Cercyon 属のガムシは今回 *C. aptus* コケシガムシも採集したがこの種は淡路からの記録が既にある。

産地：津名郡松帆ノ浦 (1 ex., 21-IV-1983). 三原郡慶野松原 (1 ex., 26-V-1983).

Family Histridae エンマムシ科

Hypocaccus varians (Schmidt) ハマベエンマムシ

本種に就いては別に報告させて頂いた「兵庫県のエンマムシ」を参照頂きたい。淡路島からの記録は之が初めてである。

産地：津名郡松帆ノ浦 (3 exs., 21-IV-1983).

Hister japonicus Marseul ヤマトエンマムシ

本種に就いても別に報告している。淡路からは筆者自身岩屋で古く採集している(未公表)が今回慶野松原でも得られた。

産地：津名郡岩屋 (1 ex., 26-IV-1959). 三原郡慶野松原 (1 ex., 26-V-1983).

Family Staphylinidae ハネカクシ科

Aleochara (*Triochara*) *trisolcata* Weise ホソセスジヒゲトハネカクシ

中根博士の原色大図鑑で同定した(1963)。体長3.5mm。前胸背周縁は深い溝を具え、中央に点刻を含む3縦溝があり、間室と外側は平滑、側縁に沿い不規則な数列の粗大点刻があると云う特徴がはっきりしているので間違はないと思われる。海浜性と云うことであるが兵庫県下からは今迄記録が無かった。松帆ノ浦で採集出来たが明石市の林崎海岸の海藻の下にもたくさんいた(8 exs., 13-IV-1983)。同属の *A. (Emphenota) fucicola* Sharp ツヤケシヒゲトハネカクシも本種に良く似ているが前胸背、上翅が光沢を欠き、腹部はや、光沢があるが前胸背には溝とか皺のようなものがない種である。海岸線の海藻の下にたくさんいる。こちらは同じく松帆ノ浦で5 exs. 採集したが既に淡路からの記録はある(久松, 1973)。

尚海浜性のハネカクシ *Cafius vestitus* アバタウミベハネカクシ(松帆ノ浦, 4 exs.),

Phucobivs simulator ウミベアカバハネカクシ(松帆ノ浦, 3 exs., 慶野松原, 4 exs.) は共にたくさんいたが既に淡路からは記録されている種である。

産地：津名郡松帆ノ浦 (1 ex., 21-IV-1983).

Family Elateridae コメツキムシ科

Colaulon scrofa Candeze ヒメサビキコリ

本種はCandeze が 'Japan' を産地に記載された種であるが (Mém. Soc. Sc. Lige. 2, V, p. 4, 1873), 三輪勇四郎博士は古く Kobe, 6-V-1881, G. Lewis leg., 須磨の一の谷, 16-V-1930, M. Suzuki leg. を記録しておられる (1934). 兵庫県下には広く分布している種で神戸市内でも普通である. 神戸市鳥原 (4 exs., 25-IV-1954, 5 exs., 2-V-1954, 4 exs., 29-IV-1955, T. Kishii det.). どうしたわけか淡路島からの記録が見当らなかった. 同属で後翅の退化した種で海浜の近くに多いと云われている *C. miyamotoi tsukamotoi* ハマベオオヒメサビキコリは今回見られなかった (姫路市浜田海岸の記録あり, 大平, 有本, 1976) が恐らく慶野松原にはいる種だと考えられる.

産地: 三原郡慶野松原 (2 exs., 26-V-1983).

Family Melyridae ジョウカイモドキ科

Laius histrio Kiesenwetter ヒロオビジョウカイモドキ

この科の県下産に就いては最近詳しく報告させて頂いた (1982). 本種も県下に広く分布している種として報告したが淡路島からの記録はなかった. 今回慶野松原の海辺で採集出来た.

産地: 三原郡慶野松原 (2 exs., 26-V-1983).

Family Tenebrionidae ゴミムシダマシ科

Gonocephalum coenosum Kaszab ヤマトスナゴミムシダマシ

Kaszab により 'China, Japan, Formosa, Korea' を産地に記載された (Ent. Arb. Mus. G. Frey, 3(2): 454, 643-646 & 682-683, fig. 413-415, 1952). 中根博士の図説がある (1963). 今迄神戸市では採集されていたが県下でもほとんど記録が無かった. 淡路島からも始めてある. 割合いる種ではないだろうか.

Gonocephalum 属 (スナゴミムシダマシ属) の分類はかならずしも楽ではない. 中條道崇氏は日本産の検索表を示され (昆虫, 31巻, 2号, p. 151-153), 中根博士は図入りで詳しく説明しておられる (月刊むし, 36号, 1974). またこの属6種の生態に就いて大川秀雄氏の報文がある (昆虫と自然, 12巻, 12号, p. 17-21, 1977).

産地: 三原郡慶野松原 (4 exs., 26-V-1983).

Gonocephalum persimile (Lewis) ヒメスナゴミムシダマシ

Lewis により 'Miyanoshta or Odawara' を産地に *Opatrum* 属で記載された (1894). 中根博士による図説がある (1963).

県下では非常に多く産する種であるが淡路島から今迄記録の無かったのは不思議で恐らく調査不十分のためであろう。

産地：三原郡慶野松原（2 exs., 26-V-1983）。

Gonocephalum pubens Marseul オオスナゴミムシダマシ

Marseul が Hiogo（今の神戸市）を産地に記載した種である（Ann. Soc. Ent. France（5）6：96, 98-99, 1876）。勿論 G. Lewis の採集品で多くいと書いている。

県下での記録が従来ほとんど知られていなかったが筆者は最近姫路市大塩の浜、明石市屏風ヶ浜で多数採集した。淡路島からも記録が無かったが松帆ノ浦では多くいた。

産地：津名郡松帆ノ浦（21 exs., 21-IV-1983）。

Gonocephalum recticollo Motschulsky カクスナゴミムシダマシ

原記載は見えない（Bull. Mosc., 39：173, 1866）。Lewis は `Kobe, Sannohe, Shirakawa, and in countless multitudes on the plain of Fujisan in the early days of May` として *Opatrum* 属で記録している（1894）。中根博士の図説もある（1963）。県下では海岸線ぞいに割合いそうであるが淡路島からの記録は見当らなかった。淡路島でも多くいる種ではないだろうか。

産地：津名郡松帆ノ浦（1 ex., 21-IV-1983）。三原郡慶野松原（5 exs., 26-V-1983）。

Phelopatrum scaphoides (Marseul) オオマルスナゴミムシダマシ

Marseul が、Hiogo 産で *Hatrus scaphoides* として記載した種である（I. C., p. 96-100, 1876）。G. Lewis の採集品によって、ありたくさんいと書いている。

ところがこの種今迄兵庫県下で全く採集出来ていなく、また記録もなかった。今回慶野松原で多くいることがわかり大変喜んでい。恐らく他の海浜にも多くいることだろう。中根博士の図説がある（1963）。割合特徴があるゴミムシダマシである。

産地：三原郡慶野松原（8 exs., 26-V-1983）。

Micropedinus algae Lewis ホソハマベゴミムシダマシ

本種は次の *M. pallidipennis* と同じように Lewis により Kobe 産標本で新種記載されたばかりであり新属 *Micropedinus* の記載も同時にされている（Ann. Mag. Nat. Hist.（6）13：379-380, 1894）。

そしてこの種に就いては `Abundant under seaweeds on the sea-coast` と書いている。当然その当時の神戸は見渡す限りが砂浜の海岸線であったからいくらでもいたのであろう。

現在瀬戸内海に面した兵庫県での砂浜による海岸線は非常に僅かしかなく色々の制約もあって今

日現在どうなっているのか全くわからない。従って原記載以後県下での記録がなかった種であるが今回慶野松原の海岸線で打ちあげられた海藻の下から採集出来たことは大変うれしい。恐らく多くいるだろうと考えられる。

産地：三原郡慶野松原（2 exs., 26-V-1983）。

Micropedinus pallidipennis Lewis ヒメホソハマベゴミムシダマシ

前種と同じ所に 'Kobe、産で記載されている（1894）。'Associated with M. algae、と書いてあるように慶野松原の海浜で打ちあげられた海藻の下で前種と同じ所で得られた。淡路島からは初めての記録である。この種の方は筆者自身赤穂市天和の浜で既に採集している（5 exs., 26-IX-1974）。共に中根博士の図説がある（1963）。

産地：三原郡慶野松原（5 exs., 26-V-1983）。

Ischnodactylus loripes Lewis ヒラタキノゴミムシダマシ

Lewis が 'Oyayama. Three specimens、として岡入りで記載した種である（I. C., p. 392-393, pl. XIII, fig. 6, ♂, 1894）。中根博士の図説がある（1963）。

本種は神戸市内では割合記録されていたが（県下では他に氷上郡に記録あり）、淡路島では記録がなかった。慶野松原の松に発生していた茸にきていた。同時にベニモンキノゴミムシダマシ *Platydema subfascia* Walker が多くきていた（14 exs. leg.）。こちらは既に淡路島の記録はある。

産地：三原郡慶野松原（2 ♂, 26-V-1983）。

Family Lagriidae ハムシダマシ科

Macrologria rufobrunnea (Marseul) ナガハムシダマシ

本種に就いては既に本誌上に報告させて頂いている（No. 28: 9, 1983）。淡路島からは初めての記録になる。

産地：三原郡慶野松原（1 ex., 26-V-1983）。

Family Chrysomellidae ハムシ科

Mantura clavaeui Heikertinger スイバトビハムシ

Heikertinger が 'Jesso, Kyoto、を産地に記載した種である（Verh. Zool.-Bot. Ges. Wien., LXII, pp. 44-48, 1912）。

Baly が1874年にヨーロッパに分布している *Mantura rustica* Linne として日本から 'Japan, a single specimen; also the whole of Europe、として記録している（Trans. Ent. Soc. London. p. 196, 1874）種がこれに当る。

中根博士の原色による図説がある（1963）。可成りはっきりした色彩をしているので一見してわ

かる種である。従来県下から全く記録がなかったが松帆ノ浦の海岸線のそばに生えているスイバ？の葉上にたくさんいた。食草としてはスイバ、ギシギシが知られている。時期を得ば多くいる種なのではないだろうか？ 手でつかまえられる位で余りピョンピョン飛んで逃げるようなことはなかった。

産地：津名郡松帆の浦 (14exs., 21-IV-1983).

Chaetocnema concinnicollis Baly ヒメヒサゴトビハムシ

Baly が 'Nagasaki ; a single specimen、として *Plectroscelis concinnicollis* として記載した種である (I. C., p. 208, 1874).

Gemminger et Harold の Cat. XII, p. 3520 (1876) で *Chaetocnema* 属に扱っている。

Mader は水上郡柏原産 (採集者は山本義丸氏と思はれる。同氏より中條道夫博士にわたり同博士から Madar にわたっていると考えられる) で subsp. *kaibarensis* を記載された (Mushi. Vol. 33, No. 7, p. 48, fig. 1 1960). 木元新作博士は本種のシノニムとされた (Jaur.

Fac. Agr. Kyushu Univ., Vol. 13, No. 3 : 415, 1965).

中根博士が原色で図説されている (1963). 和名はヒメドウガネトビハムシとなっている。食草はダイコンが知られている。分布は可成り広い種であり県下ではそう多くないが記録があったが淡路島からはなかった。松帆ノ浦で前種と同じ所で採集出来た。

産地：津名郡松帆ノ浦 (1 ex., 21-IV-1983).

Family Curculionidae ゾウムシ科

Stenoscelis gracilitarsis Wollaston マツノクチブトキクイゾウムシ

本種は G. Lewis が Hiogo (現在の神戸市) で 1870 年 8 月採集した標本に基いて Wollaston が記載した種である (Trans. Ent. Soc. London, Part. I, p. 42-43, 1873). クロマツ、アカマツの林部に穿入する所謂松の害虫であるから広く普通にいそうであるが県下の記録も案外少い。淡路島でも今迄記録の無かったのが不思議である。この種をふくめて慶野松原には他のゾウムシ類も多く産するように思われる。中根博士の図説がある (1963).

産地：三原郡慶野松原 (1 ex., 26-V-1983).

以上僅か 2 日間の調査の結果ではあるが淡路島からの初記録種を報告させて頂いた。初めに記したごとく島の甲虫類の調査はまだまだ充分だとは云えそうになく時期を変えてゆっくり調べれば完成の追加種も出てくるものと考えられる。筆者自身も出来れば引継ぎ調査をやりたいと思っているが何んと云っても地元の方々の御活躍を大いに期待したいと考えている次第である。

(June, 1983)

淡路島のマイコトラガについて

登 日 邦 明

マイコトラガ *Maikona jezoensis* Matsumura は、前翅に典雅な斑紋を有し、春先にのみ出現するトラガ科の稀種で、松村(1928)が札幌より記録して以来、北海道函館市(中嶋, 1966)・山部町(有沢, 1968)、山形県鶴岡市、新潟県津川町(杉, 1958)・新津市秋葉山(村木, 1960)・添山・角田山麓(石塚, 1971)・佐渡島白瀬、神奈川県伊豆大島(藤原・前波, 1966)、静岡県大滝温泉(岩田, 1962)、長野県白骨温泉(安藤, 1968)・島々谷、福井県武生市(永井・徳永, 1967)、石川県金沢市(小坂, 1976)、岐阜県神岡町(洞口, 1966)、和歌山県新和歌の浦(佐藤・1965)など、北海道中・南部と東北地方から近畿地方まで主として日本海側と内陸部に分布し、四国からは、徳島県眉山(永井, 1965)より記録がある。また、対馬からも発見されている。屋久島小杉谷(杉, 1973)からも採集されているが、これは亜種 *tenebricosa* Inoue とされている。

淡路島からは、筆者(1973)が洲本市中津川より1♀を記録したが、これが兵庫県下初の記録であった。

淡路島ではその後、藤富正昭氏と林 俊雅氏によって洲本市厚浜と宇山から複数個体が採集されており、その概要については筆者が既に記録(島の生きものたち、神戸新聞出版センター刊、1982)しているが、採集データの詳細を公表していなかったのと、その後もさらに新たな産地が発見されているので、現在までのすべての記録を整理しておきたいと思う。

尚、データ中の略号MFは藤富正昭氏、THは林 俊雅氏採集のものである。また、標本は、厚浜産の2♂は淡路農業技術センター昆虫研究室に保管されているが、他はすべて採集者の厚意により筆者が保管している。貴重な資料を提供された両氏に、厚くお礼申し上げたい。

採 集 記 録 一 覧

1. 洲本市中津川 [Nakatsugawa]

1♀, 7. VI. 1972 (登日, 1973)*

* 蛾類通信(73)に発表したものの再録であるが、淡路島における採集記録中では、最も遅いデータである。

2. 洲本市中川原町厚浜 [Atsuhama]

3♂, 19. III. 1974 (MF), 1♀, 29. III. 1974 (MF).

当時同地にあった県農業試験場淡路分場内の発生予察燈に飛来したもので、その後も調査を継続していたが、採集できないとのことである。

3. 洲本市宇山 [Uyama]

1 ♂, 27. III. 1981 (TH), 1 ♀, 30. III. 1981 (TH), 1 ♂, 17. III. 1982 (TH),
1 ♀, 28. III. 1983 (TH).

いずれも神社の常夜燈に飛来したものであるが、同一場所で毎年発生が確認された点が興味深い。

4. 洲本市三熊山 [Mt. Mikumayama, alt. 133m]

1 ♂, 20. III. 1983 (TH).

今回、新たに記録される産地であるが、従来記録があった宇山から約2km、中津川から約9km離れた位置にある。比較的大規模に照葉樹林が残存する同山の、北面登山道の中腹に落ちていた死骸を、林氏が捨てたものであるが、死後あまり日数を経てない状態のものであった。

5. 三原郡三原町八木 [Yagi]

1 ♂, 26. III. 1982 (MF).

これも今回新たに記録される産地であるが、同地にある淡路農業技術センターの窓に飛来したものを、藤富氏が採集したものである。三原平野のほぼ東端に位置し、周辺はほとんど田畑であり、植生面では注目すべきものはない。また、既知産地からはいずれも10km以上離れている。



Fig. 1 淡路島における
マイコトラガの産地

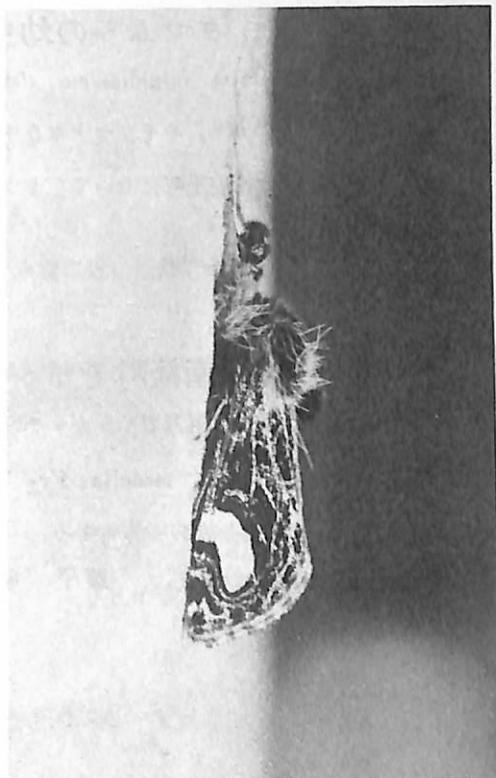


Fig. 2 静止するマイコトラガ —1982年
3月・洲本市宇山— Photo: 林 俊雅

淡路島からは、現時点で上記のように5箇所から合計11個体の本種が発見されている。

このうち、最初の発見地である洲本市中津川をはじめ厚浜、宇山、三熊山には、規模の差はあれいづれも照葉樹林あるいは照葉樹林に移行する以前の比較的自然度の高い林があり、その林内あるいは林縁で本種が得られている。

このような事実から、本種は比較的自然度の高い森林の周辺に分布すると考えていたのであるが、三原町八木の産地は平野部で、周囲にも目ぼしい植生が見られないような場所であり、このような環境下での本種の発見は意外であった。

もっとも、本種の幼虫の食草としてはノブドウ *Ampelopsis heterophylla* Sied. et Zucc. が知られており、これは山野に広く見られる植物である。

従って本種は、発生時期が早春であること、個体数が比較的少ないことなどから従来より稀な種とされてきたが、決して分布が極限される珍稀な種ではなく、少なくとも淡路島に関しては、中・南部地域に広く分布する種であるといえる。現時点では北部地域から記録がないが、恐らく分布するものと思われる。引き続き会員諸兄の協力を得て、調査を継続したいと考えている。

タマムシの幼虫の食樹について

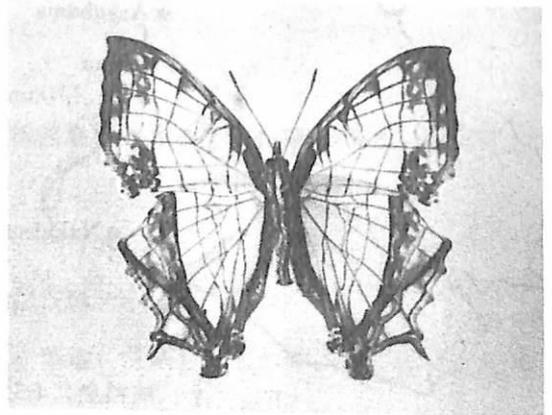
タマムシ *Chrysochroa fulgidissima* の幼虫の食樹としては、これまでにサクラ、ケヤキ、エノキ、カシ、シイ、カキ、モモ、ヤナギなどが記録されている。筆者は昨年（1983年）の1月から3月にかけて、洲本市安乎町において、ヤブニッケイとビワの枯木で本種の幼虫を多数確認したので報告しておく。

（堀田 久）

南淡町でイシガケチョウを採集

1982年10月24日、南淡町阿万でイシガケチョウ *Cryestis thyodamas madella* Fruhstorfer 1 ex. を採集したので報告する。

尚、標本は筆者が保管している。（藤平 明）



編 集 後 記

- ▽ 遅くなりましたが、'84年度の1号目をお届けします。
- ▽ 印刷所であるれいめい社の御厚意により、今回より実費に近い価格でオフセット印刷にすることができました。
- ▽ いま島は、明年の架橋と縦貫道の開通に向けて、沈まないばかりの狂騒ぶりです。これに負けずに、地道な調査を続けたいものです。 (T).

PARNASSIUS No. 30

1984年4月27日 印刷

1984年5月2日 発行

編集者 登日邦明

発行所 淡路昆虫研究会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235 登日方

郵便振替 神戸7-49591

印刷所 れいめい社

〒656 兵庫県洲本市本町5丁目1-24